

みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第45号

発行日
平成23年 9月1日

目次

- | | |
|-----------------------------------|---------------------|
| P2 公募観察会・奥の院コース | P7 大山研修交流旅行 |
| P3 きのご観察会、樹木名板調査 | P8 包ヶ浦海岸清掃、クリーンディ |
| P4、5 入浜定点観測及び維持管理
作業 6/18 7/30 | P9 神社海浜清掃、入会年次別会員 |
| P6 宮島二流記 平田 広三郎 | P10 広島工大ツアー・投稿 |
| | P11 みせん 40号国会図書館に収蔵 |



大山の二段滝

大山の東斜面の加勢陀（かせち）川上流にある2段滝で、日本の滝百選に入っている。落差上段28m、下段14mで水量も豊富、雄大な滝である。

展望台から急斜面をロープ伝いに降り、滝壺手前の河原から撮影した。

（本号P7に研修旅行記事掲載）

（写真・文） 末原 義秋

公募観察会 奥の院 多々良林道コース

日 時 6月4日(土) 9:00 ~ 16:00
参加者 井上 岩崎 大西 小方ペア 小川
川崎 北野 小林ペア 佐渡 佐藤(佐)
佐藤(庸) 末原 富田 中道 野呂田 平田
平野 舩田 丸平 六重部
榊 自然保護官 大高下 AR

6月4日公募観察会・新宮島八景「幻の滝」と奥の院多々良林道コースが実施されました。当日は夏を思わせる暑い日で、朝の挨拶で自然保護官の榊さんから飲み物を一本追加してくださいとのことでした。予定通り9時過ぎにPVのリーダーを中心に5班に分かれて宮島栈橋をスタートしました。

里見茶屋跡展望台に10時に到着、一息ついたところで、いつもの名調子中道さんから「幻の滝」の解説がありました。残念ながら好天の為、幻となり見ることはできませんでしたが、次の期待を楽しみに待ちましょう。



里見茶屋跡 幻の滝は見えず

11時に仁王門跡到着、水分を補給したところで弥山町石の第一人者岩崎さんから町石についての解説とクイズ、仁王門から奥の院までの809m八丁の距離、最後は31丁か28丁か、答えは昼食の後で-----。

12時に奥の院到着のあと待望の昼食、その後、アクティブレジャー 大高下さんから大久野島ビジターセンターで開催される国立公園写真展の案内があり、瀬戸内海国立公園宮島地区に自然海岸や自然林が古来のまま残



奥の院での解説

されていることを大切にしたいものだ和我々PVの仕事を再認識させられました。

次いで中道さんから奥の院の説明がありました。江戸時代に発行された「厳島図絵」を拝見すると、たくさんの参拝客で賑わった昔がしのべれます。弥山奥の院が海拔333mと東京タワーと同じ高さにあるのも面白いものですね。

私事ですが、のんびりした3年がかりの四国巡礼をこの秋終えます。10/13が高野山ですからしっかり奥の院にお参りして来ます。

13時奥の院スタート、多々良を目指しての舗装された林道では、ミズメやイスノキ他各リーダーの説明を聞きながらの下山でした。先週下見会に参加された方の植物の臨時の名札が役立ちました。

15時一人の落後者もなくゴール。参加者の中には高齢者もおられましたが、皆さん健脚でした。PVの参加者は22名、ちなみに私の万歩計は18,169歩でした。

(佐渡 正幸)

極楽寺山 きのに調査

ウスキキヌガサダケを訪ねて

日時 7月9日(土) 9時30分~13時
参加者 足立 岩崎 小方(嗣) 奥田 川崎
北野 小林ペア 佐伯 末原 野呂田 村上
横路 吉崎 六重部

極楽寺山、蛇の池駐車場から足元の悪い中歩き始めてすぐに白いタマゴダケに出会いま



タマゴダケ

した。頭が赤っぽくなるのですね。

さらに牛池方面に北の方の尾根を下って行きました。ウスキキヌガサタケの本物に会えてとても感動しました。ヴェールをかぶっているというか(?)着ているというか(?)自然の中でこのようなものが出来るとは。

もう一つ、巣丸の滝へ降りていく途中で、ソウメンタケにも出会いました。

皆様のお陰で珍しいもの、不思議なものに会わせていただき感謝しています。

(奥田 克江)



ウスキキヌガサタケ

後日談

ウスキキヌガサタケは 極楽寺の中でも特定の場所にしか発生しない。今回 7/9 の観察会実施に際して「まだ出ぬか」と、各会員が何度も下見に通った。去年は例年より遅くて 7/7 に 30 本余り見ることが出来た。今年は 7/9 の当日は僅かに 1 本のみ。次の日には梅雨が明けてしまったので、もう諦めていたところ、翌週 7/14 北野会員の情報によると同じ場所で今年も何と 30 本も大量に発見したとのこと。 (岩崎 義一)

植物マップづくり 樹木名板調査パトロール

日 時 6月25日(土) 9時～15時30分

参加者 足立 岩崎 小方ペア 小川 川崎

北野 小林ペア 佐伯 佐渡 佐藤(佐)

末原 田中 野呂田 平野 舩田 村上

柳瀬 横路 六重部

セブンイレブン助成金事業の、既存の弥山原始林植物のマップの作成見直し及び樹木名板の補充に伴う現地調査を実施しました。

植物マップ調査は、弥山登山道の3班(紅葉谷、大聖院、大元)に分かれて、マップに記載の樹木の有無調査及び追加記入の樹木調査を行いました。

樹木名板調査は、2班(うぐいす道、あせび・もみじ道)に分かれて、樹木と名板の有無調査と台帳とのチェックを行い、不足する名板を補充します。

今後植物専門の会員での編集会議を経て、マップの改訂版を作成する予定です。

現在第1回目の編集会議を行い、最終的には10月1日の樹木名板調査後に最終編集会議を行い、マップを印刷し完成の手はずです。

(末原 義秋)



大元道での植物マップ調査

環境省 ホームページ

宮島地区パークボランティアの会の年間活動計画、会報「みせん」の既刊分などが掲載されています。「宮島地区パークボランティアの会」で検索できます。

入浜定点観測

及び維持管理作業

日時 6月18日(土)9:30~12:00

天候 くもりのち晴れ

参加者 井上 大西 小川 小林ペア 佐藤(佐)
佐藤(庸) 末原 中道 平田 平野 舩田 松田
三次 村上 大高下AR

【生物調査と水質調査】7月30日の記事参照

【維持管理作業】

入浜海岸の清掃作業を宮島水族館職員と合同で約1時間行い、カキ用パイプなどプラスチックゴミを17袋、重量65kgを収集しました。(当日は「スナメリクジラと海の環境について」のNHKテレビの取材あり。P11に詳細記事)

水路の維持作業は、アサヒビールの助成金で購入した耐紫外線用土のう(写真の黒い土のう)150袋を作成し、水路の土手約10m(3段積)を補強しました。

(末原 義秋)



水路の土のう積み(3段)

入浜定点観測

及び維持管理作業

日時 7月30日(土) 9:00~12:00

天候 晴れ(帰るとき夕立あり)

参加者 大西 小方(嗣) 小川 近藤 佐伯
佐藤(佐) 中道 平田 平野 松田 三次
村上 横路 六重部

【生物調査】

調査日: 6月18日, 7月30日

調査結果:

トンボ類の成虫は、6月は8種、7月は9種が確認されました。5月を含め、表にまとめました。季節が進むにつれて夏のトンボが加わり、少しずつ種類が入れ替わる状況がわかります。

ヤゴは6月にはアオイトトンボ属、アカネ属の老齢幼虫が数多く採集されるなど、汽水化の影響はあまり受けていないように見えます。逆に少し気になるのがミシシippアカミミガメ(要注意外来生物)の立派な成体が、おそらくはじめて?確認されたことです。

7月はメダカの群れ、ハイイロゲンゴロウが多くみられたのが目立ちました。今後も水生生物や植物の変化に注意していきたいと思えます。

鳥類は、6月ではウグイス、キビタキ、ヤマガラ、カワラヒワなどのさえずりがまだまだ賑やかで、ヤマガラの子育て(餌運び)の様子も見られました。ミサゴも上空を舞い複数でよく鳴いていました。

7月はウグイス、シジュウカラ、ホオジロなどのさえずりのほか、セグロセキレイの幼鳥が見られました。

(松田 賢)

表 ラインセンサス法による1時間あたり出現個体数 網掛けは調査月ごとの優占種

科名	種名	5月21日	6月18日	7月30日	科名	種名	5月21日	6月18日	7月30日
イトトンボ	キイトンボ			0.78	トンボ	ショウジョウトンボ		0.80	
	アオモンイトトンボ	3.43	2.40	4.68		シオカラトンボ	3.43	0.80	3.90
アオイトトンボ	ホソミオツネトンボ	0.86	0.80			シオヤトンボ		0.80	
	オツネトンボ	12.00	2.40			オオシオカラトンボ		1.60	5.45
ヤンマ	クロスジギンヤンマ	1.71				ウスバキトンボ			1.56
	ギンヤンマ	0.86	2.40	0.78		コシアキトンボ			0.78
エゾトンボ	オオヤマトンボ			0.78		チョウトンボ			1.56
						種数	6種	8種	9種
					合計 5科14種	時間あたり個体数	22.3個体	12.0個体	20.3個体

【植物観察】

砂浜のハマゴウは今は満開、海岸東側の岩場のハマナデシコは花は終わり既に実、シロダモ、クロキ、ソヨゴ、ジャケツイバラ、ウラジロマツブサ、ヤタイヤシ(ブラジルヤシかも?)などがたくさんの実をつけています。今年は実つきが特に良いようです。

今回は浜の西側の林を丹念に観察してみました。その結果、アオツツラフジ、サカキカズラ、ソヨゴ、タラヨウ、トキワガキ、ミヤマガマズミ、ヤマウルシ、リョウブを新たに確認。また、神社裏手近くにはトウネズミモチが、池周辺の湿った場所にはヒメナミキ、アゼナも見られました。宮島の維管束植物は700種を超えています。入浜でこれまでに確認した種数は150種にも至っていません。まだまだもっとある筈です。季節が変われば見えてくるものもあります。次の機会には何が分かるのでしょうか。(六重部 篤志)

【維持管理作業】

暑い中での作業でしたので、池周辺のゴミとカキパイプの収集を行いました。カキパイプは土のうに5袋ほどありましたが、まだまだあるようです。でも焦らずに気長に活動を続けて行きましょう。

(平田 広三郎)

【水位変化】および【水質調査】

今回は、水位の変化をA地点の写真で紹介します。写真左側が海で、(降水量 mm)というのは、気象庁のホームページから算出した大竹の過去30日間の降水量です。

写真1は、今年2月の撮影。砂地に立つA地点の標識を矢印で示しました。池の水は写真の範囲だけにあり、ヒトモトススキの根元は泥状でした。

写真2は、6月の調査時、標識は水上にあります。

写真3は、7

月の調査時、標識は水際にあります。過去30日の降水量は写真2の半分です。池にはメダカが大量におり、海の近く

の水路まで泳ぎ出ていました。

C地点は水の少ないのですが、6/18には

表流水が流れ込んでいました。

山水は入浜池とは別の水系ですが、6/18の水量は7/30の3倍でした。



写真3 7/30 (降水量 155mm)

一方、入浜池では、6/18は山側の5箇所で見られ、表流水が入浜池に流入しておりF地点(水路

付近)以外は塩分ゼロでしたが、7/30は表流水の流入はなく、道路沿いのA,B地点からは塩分が検出されました。(小川 加代) (測定データ)

項目	調査日	A 地点	B 地点	C 地点	F 地点	山水	海水
水温 ()	6/18	18.7	20.8	16.2	20.8	16.5	19.1
	7/30	30.0	34.7	水なし	31.1	21.4	27.0
pH	6/18	6.0	6.4	6.1	6.1	7.0	7.9
	7/30	6.5	6.9		6.9	7.0	8.0
塩分 (%)	6/18	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	2.00
	7/30	0.23	0.45		0.23	0.00	2.10
COD ハック テスト	6/18	10	5	3	10	3	
	7/30	20	13		15	12	7

「みせん」次46号発行予定

発行日 12月1日

原稿締切 10月末日

皆さんの投稿をお待ちしています

宮島二流記 (その9)

平田 広三郎

今回は幕間（まくあい）です。

ア. (その1) 厳島合戦の余談

戦国時代の伝記は、勝者のみが正義者として描かれ、敗者の心中はいかようであったかは辞世の歌などで推測するほかないようです。

陶晴賢は、天文二十年（1551）に主君大内義隆を殺して以来、感情に左右され理性を欠く行動が目立ち、悶々としていた様子がわかります。翌年、同志であった杉重政を殺したり、31歳の若さでいきなり出家して卓鍾軒全姜賢友（たくすいけんぜんぎょうけんゆう）と号し、気持の上で己の罪を少しでも軽く感じたいと思ったに違いありません。何よりの証拠に、宮島の宮尾城を守った毛利方の武将己斐豊後守・新里宮内少輔（兩人とも旧大内家々臣）が、山口の旧友たちに晴賢が主殺しの悪人ときめつけた手紙を送りつけたのに理性を失い、厳島におびき出されています。戦いに敗れて、大江浦へ追い詰められ、別れの水盃をくんだあと舞い、「何を惜しみ何を恨みむ元よりも この有様の定まれる身に」と辞世の歌を残しています。この歌からは、「こうなるのはあたりまえだ、これでわしはほっとしたよ。」と解放感にひたる様子がわかります。そこには社会通念としての悪逆をおかさねば生きていけなかった戦国武将のトラウマ（心的外傷）やいたましい姿が見てとれます。これが敗者の姿なのです。

*「戦国覚え帖」稲垣史生（しせい）

（株）旺文社 1984

イ. (その2) 植物「半夏生」について

ややこしいのですが「半夏」という植物もあります。こちらは「カラスビシャク（烏柄杓）」と言うサトイモ科の植物で、有毒ですが生薬としても用いられます。別名「ヘソクリ（女性が得意なアレです。）」とも言い、農家のお年寄りが塊茎（かいけい）を掘り貯めて集荷人に売ってヘソクリを作ったからと言う説もあります。

徳川九代将軍家重の頃（1758）、幕府の忌諱に触れて死罪となった講釈師 馬場文耕の「当世武野俗談」の中に「半夏婆々（女性会員には失礼します。）」と言うのがあると、現代の作家 故網淵謙定は作品「業（ごう）」中で、ある女性について述べています。作家は「半夏婆々」の意味は、ドクダミほどではないが少し遠慮して「半夏生」としたのではないかと解釈しています。しかしこの女性の極悪非道の所業でがめつくコツコツと金を貯めていく生き様を読まされてみると、悪業は別にして私はその貯め方からして「半夏」の方を取りたい。

ウ. 弥山の七不思議の一つ「拍子木の音（深夜の天狗のしわざ）」について

山形県鶴岡市の出羽三山の羽黒山は古くから山岳修験の山として知られており、その秋の入峰修行（8月24日から7日間）に行われる、「椿の調（しら）べ」がそれではないかと思われます。

羽黒山伏（しばしば天狗に間違えられます。）の峯中修行には日中・初夜・後夜の三勤行があって、後夜勤行は深夜一時か二時になります。先達山伏が「床上げー、床上げー」とまわり、一同は大あわてで山伏姿になり道場にすわらせられます。シワブキ一つ聞こえない深山の夜更けは神秘感と睡気で頭の中がジーンとしびれ、この時の勸行に法華懺法（ほっけぜんぼう）がおこなわれますが、その読経の伴奏が「椿の調べ」なのです。まず 三人の承仕が火鉢を三つ持ち込み、読経の合間々々に椿の生枝をくべると、「パチパチ」とはぜる音がします。これが低音の読経の伴奏として効果的で、リズムカルな調子と「椿の調べ」の自然音を深夜の静寂の中で聞くと、さながら太古の原始林の中に身を置いている気分になれるそうです。かつて 弥山でも同じような修行が行なわれ、何かの用で宮島に渡って一夜過ごした人がこれを聞いて、「拍子木の音」として伝えたのではないのでしょうか。

*「仏教と民俗」五来重（株）角川書店昭和54年

文中*印は参考文献を示します。

次回は Q10:「平 清盛はなぜ今の位置に厳島神社を建てたのでしょうか？」です。

大山へ研修交流旅行

坂本 俊弘

日 時 6月11日(土)～12日(日)
場 所 蒜山(岡山県)・大山(鳥取県)
参加者 奥田 小林(み) 阪本 佐藤(庸)
島 末原 中道 野呂田 平田 舛田
松尾(12日参加) 村上

朝8時、小雨模様の中、宮島口を一路蒜山に向かってマイクロバスで出発。11時30分頃に薄日さす蒜山の道の駅「風の家」に到着、例によって早速買い物と昼食。

蒜山郷土博物館：研修の第一歩

昔の生活用品(スゲの蓑など)や弥生時代の古墳模型と出土品(鉄刀など)を展示。

塩釜の冷泉：オプショ

「日本の名水百選」に選定された、中蒜山の裾野から湧き出る泉水、年間通して水温10℃、毎秒300リッターと水量も豊富で、湧き出るところは直径30mの池になっていた。試飲したが甘い味の美味しい水で、これぞ真の甘露と言うのでしょうか。

大山滝：本日のメインイベント

牧場「ひるぜんジャージーランド」、大山をふくめて360度見渡せる「鬼女台(きめんだい)展望休憩所」に立ち寄り、大山滝への遊歩道口(一向平：中国自然歩道の一部)に15時到着。片道40～50分で滝の見える展望台に、約400段の急な狭い丸木の階段で思いのほか時間がかかった。展望台から先の滝壺へは急な斜面であるため先着の3名が挑戦。この滝は「日本の滝百選」にも選定された、村上会長お奨め(下見済み)の落差42mの二段滝である(写真は表紙参照)。途中の植物は、タニウツギのピンク、エゴノキ、ハクウンボク、ヤマボウシの白が目立ったのと、歴史ある古道なので木地師屋敷跡・タタラ師が住んでいた旦那小屋跡もありました。17時20分宿泊地奥大山の鏡ヶ成にある「休暇村 奥大山」に向かって出発するが、途中いたるところでイワカガミが見られました。

大山：交流・研修

松尾さんが合流し、8時に交流会場に向

けて出発。途中、鍵掛峠で大山々頂(弥山、剣ヶ峰、天狗ヶ峰)を展望。



鍵掛峠から大山南壁を見る

大山登山や観光拠点の大山寺にある大山情報館(1階はバス待合所と(財)自然公園財団鳥取支部、2階が大山町観光案内所と環境省米子自然環境事務所大山出張所)に9時30分到着。早速 角自然保護官・米田ARから挨拶、活動状況、組織等の説明を受け、また宮島PVの活動状況も報告しました。大山には歴史ある「大山自然保護公園指導員の会」などがあり、まだPVの会は設立されていません。

阿弥陀堂コース(2時間)を案内していただき、指導員の会の上橋さんには我々がガイドするのに参考になる話し方で密教や僧兵の歴史を、藤原さんには大山固有の植物について説明を受けた。阿弥陀堂から大山寺本堂に行く手前にある風穴沿いの氷室(雪室)には底にまだ雪が残っていました。道沿いには、山陽側とは違った植物も多く、近くにはニリンソウの群生地もありました。12時30分に解散。

大山自然歴史館(県立)：情報収集

大山寺参道脇にあり、最近掘削した温泉のボーリングコアによる構造模型、大山の動植物のレプリカ、牛馬市などの写真展示や最新の登山情報が入手できるところです。

とっとり花回廊：最後の研修

以前来た時とあまり変わっていませんが、花の展示が以前よりすっきりしたようでした。15時30分広島に向かって出発。

盛り沢山で少しくたびれましたが、皆さん事故もなく無事に帰ることができ、企画された舛田さん“有難うございました”

包ヶ浦海岸清掃

日 時 7月16日(土) 9:00~12:00

場 所 包ヶ浦海岸(奥側の砂州)

参加者 足立 小方(嗣)小川 川崎 小林
(勲)佐伯 佐藤(佐)佐藤(庸)渋谷
島 末原 田中 富田 中道 平田 平野
丸平 村上 柳瀬 吉崎 六重部

今年の包ヶ浦海岸清掃は海開きの当日、快晴の中で行われた。

昨年よりもゴミの量はかなり少ない状態で、特にカキ養殖のプラパイプの量が減っていた(清掃活動の賜物なら嬉しいのだが・・・)。それでもガラスや缶のフタなど危険なものや、流木等で2トントラック満載の成果となった。

ボランティア活動をしている横で、海水浴とジェットスキーを楽しんでいる家族連れのグループがいたが、我々の活動を後ろ姿で示すだけでなく、少しでも一緒に参加できる企画や環境美化の提案が出来ればと感じた。心地よい汗をかいた後は恒例となっている、昼時の楽しいソーメン流し。高級料亭なみの「冷たいおしぼり」まで用意していただき、ユズ・ショウガ・ネギ・味付けシイタケ等の薬味で一人2束余りをお腹いっぱい、美味しく頂きました。



そうめん流し

暑い中気持ち良い汗をかき、皆で美味しいソーメンを食べ、



満腹後の記念撮影

学生時代のような楽しい一日でした。

島さん来年も元気で、美味しいソーメンを沢山、作ってください!!

(佐藤 佐十四)

『自然公園クリーンデー』

日 時 8月7日(日) 9:00~12:00

場 所 文中に記載

参加者 井上 川崎 小林ペア 渋谷 末原
田中 平田 平山 丸平 村上 柳瀬
横路 榊自然保護官 大高下 AR
市職員7人、宮美会6人、一般市民6人



開催セレモニー

毎年8月の第1日曜日に、全国の自然公園(注参照)を対象に大規模な美化清掃活動が展開されます。今年も環境省および廿日市市の主催により、宮島においても実施され、当会も例年どうりこれに参加しました。

当日は快晴・暑い天候でしたが、9時に開催セレモニーが始まり、環境省榊自然保護官の挨拶、廿日市市職員の宮島のシカの現状(個体数約600頭)と保護管理体制や今日の実施内容の説明・班分けがあり、その後各班ごとに清掃活動に入った。

I班大元公園から紅葉谷、2班うぐいす道から紅葉谷、3班宮島栈橋前でポケット灰皿の配布と要害山周辺、4班有之浦公園周辺、5班包ヶ浦・杉之浦から宮島栈橋。ゴミの収集量は85kgでした。暑い中本当に御苦労さまでした。

注：自然公園について

「自然公園法」における意義は、自然公園とは国立公園・国定公園および都道府県立自然公園を言います。

(平田 広三郎)

厳島神社海浜清掃

日 時 7月14日(木) 13時～15時

参加者 井上 岩崎 金山 川崎 五石 小林
佐藤(佐)佐藤(庸)末原 中道 平野 平山
三次 榊保護官 大高下 AR

今年も(今回で3度目)17日の管絃祭を前に
厳島神社の海浜清掃作業を実施した。梅雨明
け後の炎天の下、PV13 名と自然環境ネット
ワークの面々を含め総勢 20 名が参加。

今年はアオサが少なく、回廊から大鳥居に
向け清掃を行い、ほぼ片付けることが出来、
達成感があった。

神社側よりも大変感謝をされ、作業後全員
で神主よりお祓いを受け参拝をすませ、清々
しい気持ちに浸った。

3日後の管絃祭をアオサも無く気持ちよく
迎えらるることと思う。

(岩崎 義一)



清掃後のアオサの山



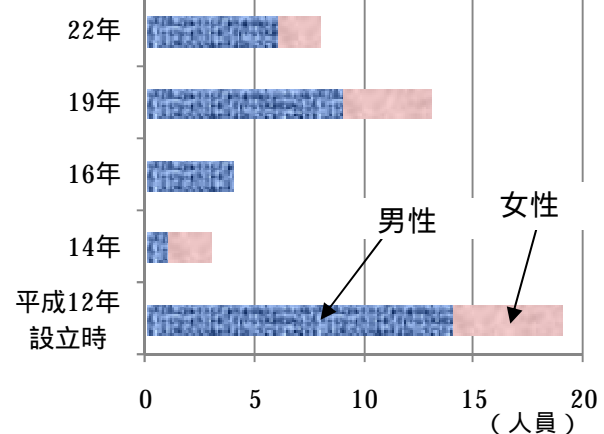
清掃作業の参加者

会員 データ

入会年次別 会員数

現在PV会員総数 47 名ですが入会年次
別の会員数は次表のようになっており、設
立時からの会員 19 名は当初登録会員 44 名
に対して 43%です。

入会年次	人数	男	女	(当初数)
平成 12 年	19	14	5	44
14 年	3	1	2	12
16 年	4	4		8
19 年	13	9	4	18
22 年	8	6	2	8
計	47	34	13	



環境省主催 極楽寺山 きのこと観察会

日時 10月23日(日) 13:00~16:00

場所 極楽寺山

講師 きのことアドバイザー 川上 嘉章氏

最初2時間ほど参加者にきのを採集
していただき、その後、講師の方に種類
や食毒判定をしていただきます。

採集場所は蛇の池～本堂展望地周辺

一般参加者のグループ分け、引率、指
導等、PV 会員で参加協力できる人は広
島事務所 AR 大高下さんまで連絡し
てください。

広島工業大学 宮島フィールドワークに協力

日時 6月30日(木) 9時～16時
参加者 岩崎 佐藤(庸)

広島工業大学・地域環境学科(上嶋教授)の「宮島フィールドワーク」に参加協力した。授業の一環として一般学生を対象とし、「自然と人間のかかわり」について広く学ぼうという趣旨で現地学習をおこなった。

調査地点は 御手洗川、大聖院登山道(白糸滝まで)、紅葉谷公園、ウグイス歩道、小なきり浜から聖崎。登山道の土石流(自然災害)と復旧工事や聖崎の自然景観などを見て回った。学生19名は 地理・景観・ゴミ班 植物班 生物班 に分かれ、宮島でのフィールドワークを行った上、2週間後に大学にて研究発表を行うとのことであった。

従来より広工大にはエコツアープログラムの連携協力活動を行ってきたが、今回学生は、大学の講義だけではなく現場で実地に学習することの重要性、大変さが分かってくれたことだろう。

海岸では今年はアオサが少ない、アマモの繁殖が多いとのこと、また大なきり浜ではアメフラシの卵、ムラサキガイなど見ることが出来、収穫であった。

秋には、宮島の各海岸での生物調査を行っていく予定であるとのこと。また、協力して活動していきたい。

(岩崎 義一)



小なきり浜での生物調査

投稿 山は荒らさ れている

岩崎 義一

三ツ子丸山と先峠山に単独で登ってきた。近年ある山岳会グループによって道が開発され、荒れていると聞いていたので、ちょうど管絃祭の7/17、祭りの始まるまでの



昼間、出かけて 丸裸の三ツ子丸山頂
みた。

多々良林道から20分で登山口、そこから急登をさらに25分、三ツ子丸山(360m)は名の通り、南北に3つのピークを持つ。登山道ではシダが刈り込まれ、土が露出し、枯れかかっている。山頂は見晴らしを良くするためか 樹木が切られて広がっている。さらにその先の大江山の方にも、道は通じさせてあった。

先峠山(397m)は多々良林道から岩船岳への道より入り、峠から同じように登山道が付けられている。登山道とは別のことはあるが、南には502ピークその北斜面に摩崖仏が

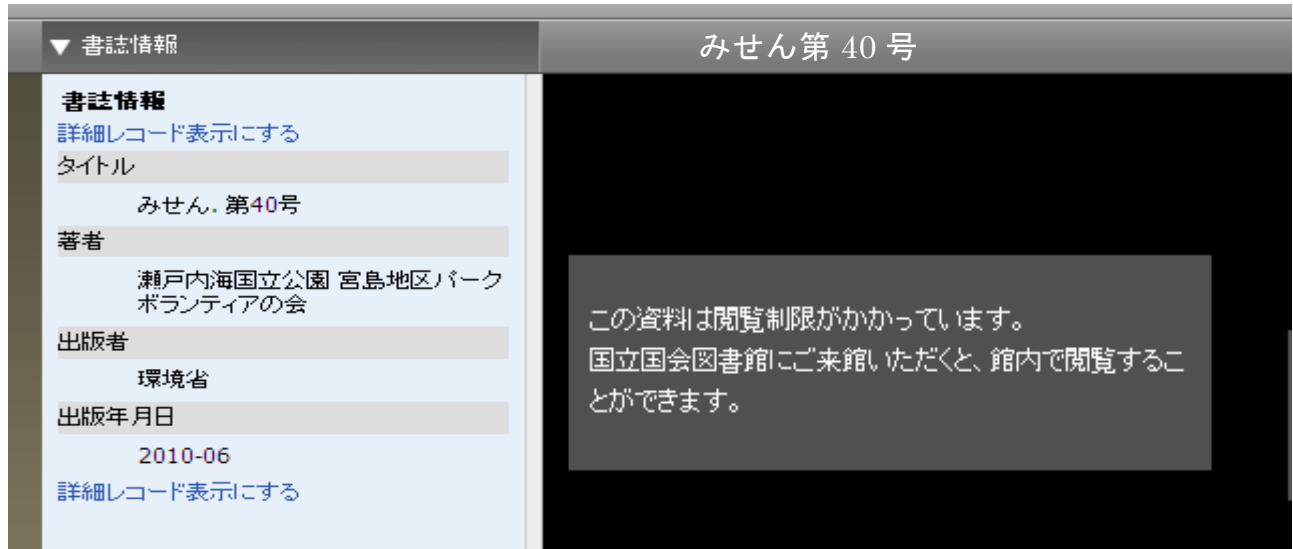


シダの枯れた登山道

刻まれているのではないかと思わせる巨石が見える。

登山道の整備の名のもとに一般の登山者が入らない山の道を開発していいものか。しかも雑誌に「宮島自然林の中に道を狭める草木を刈り払い、新たなルートの開拓」と堂々とそれを誇

っている意識の低さぶり。相当に酷いことになっていると聞いていたが、実際に自分の目で確かめてきた。ここ以外にも目につかないところで、宮島は荒らされている。



「みせん第40号」

国会図書館に収蔵される

昨年6月に発行した「みせん」第40号がこのほど国立国会図書館に収蔵されていることが分かりました。(↑ネット上の情報)

国会図書館は日本で発行されるすべての書籍を収蔵していますが、書籍だけでなく官公庁の発行するデジタル文献も収蔵され、永久保存されます。

「みせん」は第20号から毎号、環境省のHPに掲載していますが、今回特に第40号(PVの会設立10周年記念特集号)が国会図書館に収蔵されることになった経緯は不明ですが、10年間のPV活動が評価され、目に止まったことは間違いないようです。(足立 清)

「みせん40号」の主な記事

- ・パークボランティアの会10年の歩み
- ・元自然保護官 杉本さん寄稿文
- ・野呂田さん投稿文「宮島に魅せられて」
- ・PVが選定した新宮島八景
- ・平成21年度PV活動記録
- ・平成22年度総会及び小なきり浜清掃
- ・自然保護官 西野さんのプロフィール
- ・新入会員(平成22年)自己紹介
- ・宮島二流記(5) 平田さん
- ・鷹ノ巣砲台跡清掃・入浜定点観測他

入浜作業をNHKが取材・放送

6月18日の入浜の定点観測・維持管理作業がNHKの取材を受けました。当日は雨天確率30～40%でしたが、宮島近辺の会員(廿日市、五日市、広島)と宮島水族館との合同により急遽実施されました。NHKの取材班は2時間ほど我々の入浜海浜の清掃作業の撮影、村上会長・水族館職員へのインタビューを行いました。

放送は、6月19日の朝のニュースで海岸清掃の状況。6月22日には夕方6時台の「お好みワイド」で「スナメリと海の環境について」に関連して取り上げられました。「スナメリ」は新しい宮島水族館(8月1日開館)のメインキャストですのでグットタイミングでした。

(平田 広三郎)

瀬戸内海国立公園

宮島地区パークボランティアの会

事務局 環境省 中国四国地方

環境事務所 広島事務所

(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀6番30号

広島合同庁舎3号館1階

TEL(082)223-7450・FAX(082)211-0455

宮島詰所

(〒739-0505)廿日市市宮島町1162-18

(宮島栈橋2F)